

研究主題 「地理総合」・「地理探究」の実施と改善
～新科目の授業実践と作問技術の向上、評価規準の共有～

I 団体の概要

東京都地理教育研究会は、都立高校・都立中等教育学校等で地理を担当する教員の団体である。主な活動として、年3回の授業研究と年2回の巡検、GIS研究協議会を実施している。コロナ禍でさまざまな活動が制限されていた際は、オンラインで開催を続けてきたが、令和4年度より再び対面での研修、集会を再開しており、特に新規採用者をはじめとする若手教員への支援、授業力の向上や教材の研究、共有化を目指した活動を継続して実施している。

令和6年度の取組み

- 5月 定期考査問題作成協議会(研修)
- 7月 GIS研究討議会
巡検(ハンセン病資料館と多磨全生園)
全国地理教育研究会(大阪大会)
- 10月 巡検(川崎火力発電所と鶴見国際交流ラウンジ)
授業研究(2回)
- 11月 授業研究・教職員研修センター連携研修
- 2月 巡検(武蔵野市ふるさと歴史館)
共通テスト問題講評会

II 研究の目的

令和4年度より実施された新学習指導要領も3年目となり、今年度からは全ての高等学校で「新しい地理」の授業が実施された。「知識理解」から「知識活用、課題・解決型」の学習への構築に向けて、地理総合の習得内容「地図とGISの活用」「国際理解と国際協力」「防災と持続可能な社会の構築」の充実及び地理探究の学習に向けての実践的な思考、技能の指導法、評価方法の構築、共有を目指す。

III 研究の内容

- (1) 授業研究の活用
生徒の主体的な活動を促す授業の構築、活用しやすい教材の共有化、評価の方法を研究する。
- (2) GIS研修会での活用
新しい話題や社会の動向を提供していただき、教材作成、授業づくりに生かす。
- (3) 巡検を活かしての教材づくり
まちづくりや地域研究、防災、ESD等の観点から、新しい教材開発につながるような現地研究を行う。

IV 研究の方法と成果、課題

(1) 授業研究の活用と成果

全3回の授業研究と事後討議、教職員研修センターとの連携研修を通して何点かが共有された。今年度は初任者や若手教員の参加が多く、授業づくりや指導の方法の再確認や教材の共有が多く、各校で持ち帰っての試行につながり、来年度への継続研究となった。

【単元を貫く問い、授業での問いかけについて】

- ・授業計画が完成し、授業の目標やゴールが定まった後、改めて問いを見直す、考えることが大切。
- ・授業のまとめが問いと正対できているか、回答に誘導できる正しい問いかけになっているかが重要。

【導入の大切さの確認】

- ・授業の始まりで生徒を引き込むために、どのような話から始めるかを重視したい。導入に時間をとることは問いを意識させるうえでも有効。
- ・生徒の興味や関心につなげて惹きつける工夫を凝らすことは、教員自身の個性や色を出せる機会とする。

【評価に繋げるための教材の工夫】

- ・プリントで解答記入欄を複数設けることの意義が確認された。自分の考えと他者の回答や正答を併記できるようにすることで、最初の自分の考えが消されずに残るため、自身の成長の自己評価や、主体性を評価する材料とできる。

【検証】

- ・令和7年度へ研究討議を継続、さらに定期考査の作問との連携を検討する。

(2) GIS 研修会の活動と成果

【実施のねらい】

新規採用の先生方の増加を受け、地理総合の必履修単元となっている GIS (地理情報システム) について操作方法や授業での使い方を含む基礎編の研修会を実施した。

【成果と課題】

地理を専門としない先生方が多く参加された。自分で操作する時間を長めにとり、技能習得ができたと好評を得た。今年度は7月に実施したが、最初に触れる単元のため、1学期早い段階での実施を検討したい。

(3) 巡検活動の成果

【成果と課題】

若手教員の参加が例年以上に多かった。地理担当が一人しかおらず、校内で学べる機会が少ないことから、これらの機会を活用してもらえよう、活動の周知を広げたい。

<令和6年度連絡先>

団体名		東京都地理教育研究会
代表者	所属	東京都立葛飾総合高等学校
	職 氏名	統括校長 榎野 治和
	連絡先	03-3607-3878
事務局	所属	東京都立青山高等学校
	職 氏名	指導教諭 白川 和彦
	連絡先	03-3404-7801
団体ホームページ	URL	—
	二次元コード	—